

作成日: 1999年01月11日  
改訂日: 2016年03月08日

## 安全データシート

### 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称:

製品名称: セメダイン 水中エポキシ 主剤

製品番号(SDS NO): GJ0249-10

供給者情報詳細

供給者: セメダイン株式会社

住所: 東京都品川区大崎1-11-2 ゲートシティ大崎イーストタワー

担当部署: 環境安全衛生部

電話番号: 03-6421-7413

FAX: 03-6421-7416

緊急連絡先電話: 03-6421-7413

### 2. 危険有害性の要約

製品のGHS分類、ラベル要素

GHS分類

健康に対する有害性

皮膚腐食性及び刺激性: 区分 2

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性: 区分 2A

皮膚感作性: 区分 1

環境有害性

水生環境有害性(急性): 区分 1

水生環境有害性(長期間): 区分 1

GHSラベル要素



注意喚起語: 警告

危険有害性情報

皮膚刺激

強い眼刺激

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

水生生物に非常に強い毒性

長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性

### 3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別：

混合物

化学的特定名：エポキシ樹脂系二液形接着剤 主剤

成分名	含有量(%)	CAS No.	化審法番号
ビスフェノールA型エポキシ樹脂	30-40	非公開/未登録	非公開/未登録
エポキシ樹脂	非公開	非公開/未登録	非公開/未登録
無機質充填材	非公開	非公開/未登録	非公開/未登録
シリカ	<5	非公開/未登録	非公開/未登録

注記:これらの値は、製品規格値ではありません。

安衛法「表示すべき有害物」該当成分

シリカ

安衛法「通知すべき有害物」該当成分

シリカ

### 4. 応急措置

応急措置の記述

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

直ちに医師の診察/手当てを受けること。

皮膚(又は髪)に付着した場合

汚染された衣類を直ちに全て脱ぐこと。

多量の水と石けん(鹼)で洗うこと。

皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合:医師の診察/手当てを受けること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合:医師の診察/手当てを受けること。

飲み込んだ場合

水でよく口の中を洗わせる。意識がある場合、水をコップ1-2杯飲ませた上で、指をのどに差し込んで吐き出させる。

直ちに医師に連絡すること。

医師に対する特別な注意事項

特別な処置が必要である。

### 5. 火災時の措置

消火剤

適切な消火剤

火災の場合は泡、粉末、炭酸ガスを使用すること。

不適切な消火剤

水

消火を行う者への勧告

特有の消火方法

火元の燃焼源を断ち、消火剤を使用して消化する。延焼の恐れのないよう水スプレーで周辺を冷却する。

消火作業は風上から行う。

保護着を着用するほか、状況によっては不浸透性手袋、有機ガス用防毒マスク等の保護具を着用する。

消火を行う者の保護

防火服/防災服/耐火服を着用すること。

---

## 6. 漏出時の措置

### 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

関係者以外は近づけない。

回収が終わるまで十分な換気を行う。

適切な保護具を着用する。

皮膚に触れたり眼に入らないように、不浸透性手袋などの保護具を着用する。

### 環境に対する注意事項

漏出した場所の周辺にはロープを張り、人の立ち入りを禁止する。

付近の着火源を取り除き、消火器材を準備する。多量の場合には、流路を盛土などで囲って流出を防止する。

### 封じ込め及び浄化の方法及び機材

少量:紙、布、砂などに吸収させ、蓋つきの器等に回収する。

大量:何よりも拡散の防止を図る。できるだけ液体を容器に回収する。回収できなかったものに対しては、少量漏出時の措置をとる。

流出、その他の事故が発生した時には、警察署、消防署等の機関に連絡する。

### 二次災害の防止策

漏出物を回収すること。

---

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

#### 技術的対策

(取扱者のばく露防止)

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。

#### 安全取扱注意事項

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

### 配合禁忌等、安全な保管条件

#### 適切な保管条件

容器を密閉し、冷暗所に保管する。

その他、電気機器は防爆構造とするほか、消防法などの法令に定めるところに従う。

---

## 8. ばく露防止及び保護措置

### 管理指標

管理濃度データなし

### ばく露防止

#### 保護具

##### 呼吸用保護具

換気が不十分な場合、呼吸用保護具を着用すること。

##### 手の保護具

保護手袋を着用する。

##### 眼の保護具

保護眼鏡/顔面保護具を着用する。

##### 皮膚及び身体の保護具

保護衣を着用する。

### 衛生対策

取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。

汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

---

## 9. 物理的及び化学的性質

基本的な物理的及び化学的性質に関する情報

物理的状態

形状：パテ状

色：灰色

臭い：微臭

引火点：198°C

溶解度

水に対する溶解度：不溶

---

## 10. 安定性及び反応性

化学的安定性

通常の保管条件/取扱い条件において安定である。

危険有害反応可能性

一度に大量の硬化剤と混合すると、温度が急激に上昇する。

避けるべき条件

高温、火気、スパーク

混触危険物質

アルカリ、酸化剤

---

## 11. 有害性情報

毒性学的影響に関する情報

急性毒性データなし

労働基準法: 疾病化学物質

ビスフェノールA型エポキシ樹脂

局所効果

皮膚腐食性・刺激性

[日本公表根拠データ]

(ビスフェノールA型エポキシ樹脂)

ラビット 刺激性 (GERIハザードデータ集 2001-36, 2002et al)

眼に対する重篤な損傷・刺激性

[日本公表根拠データ]

(ビスフェノールA型エポキシ樹脂)

ラビット 軽度の刺激性 (GERIハザードデータ集 2001-36, 2002)

感作性(厚労省局長通達)

ビスフェノールA型エポキシ樹脂

皮膚感作性

[日本公表根拠データ]

(ビスフェノールA型エポキシ樹脂) cat.1; DFGOTvol.19, 2003

生殖細胞変異原性

[厚労省局長通達]

(ビスフェノールA型エポキシ樹脂)

発がん性データなし

催奇形性データなし

生殖毒性データなし

特定標的臓器毒性(単回/反復 ばく露)データなし

吸引性呼吸器有害性データなし

---

## 12. 環境影響情報

### 生態毒性

#### 水生毒性

水生生物に非常に強い毒性

長期継続的影響により水生生物に非常に強い毒性

#### 水生毒性(急性) 成分データ

[日本公表根拠データ]

(ビスフェノールA型エポキシ樹脂)

甲殻類(オオミジンコ) EC50=1.7mg/L/48hr (CERI・NITE, 2006)

#### 水溶解度

(ビスフェノールA型エポキシ樹脂)

0.0000041 g/100 ml (CERI・NITE有害性評価書(暫定版), 2006)

#### 残留性・分解性

(ビスフェノールA型エポキシ樹脂)

BODによる分解度:0% (既存化学物質安全性点検データ)

#### 生体蓄積性

(ビスフェノールA型エポキシ樹脂)

BCF ≤ 42(Check & Review, Japan)

---

## 13. 廃棄上の注意

### 廃棄物の処理方法

環境への放出を避けること。

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

廃棄物の処理及び清掃に関する法律の分類では、特別管理産業廃棄物の廃油と廃プラスチック類の混合物で、その処理については認可を受けた専門の処理業者に委託する。使い切った後の容器は、接着剤が乾燥固化していれば、産業廃棄物の金属くずと廃プラスチック類の混合物になる。

---

## 14. 輸送上の注意

### 国連番号、国連分類

番号 : 3077

品名(国連輸送名) :

環境有害物質、固体, N.O.S.

国連分類(輸送における危険有害性クラス) : 9

容器等級 : III

指針番号 : 171

特別規定番号 : 274; 331; 335; 375; A97; A158; A179; A197

### 環境有害性

#### 海洋汚染物質\_急性有害性

ビスフェノールA型エポキシ樹脂

#### 海洋汚染物質\_長期間有害性

ビスフェノールA型エポキシ樹脂

### 特別の安全対策

容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、破損がないように取扱い、荷崩れの防止を確実に行う。

消防法、船舶安全法などの法令の定めるところに従う

### MARPOL条約附属書II 改訂有害液体物質及びIBCコード

有害液体物質(X類)

ビスフェノールA型エポキシ樹脂

---

## 15. 適用法令

当該製品に特有の安全、健康及び環境に関する規則/法令  
毒物及び劇物取締法に該当しない。

労働安全衛生法

名称表示危険/有害物(令18条)

シリカ

名称通知危険/有害物(第57条の2、令第18条の2別表9)

シリカ

消防法

指定可燃物 可燃性固体類(届出数量 3,000kg)

化審法

優先評価化学物質

ビスフェノールA型エポキシ樹脂

船舶安全法

有害性物質 分類9

航空法

その他の有害物件 分類9

---

## 16. その他の情報

参考文献

Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, (5th ed., 2013), UN

Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 18th edit., 2013 UN

2012 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK(US DOT)

2015 TLVs and BEIs. (ACGIH)

<http://monographs.iarc.fr/ENG/Classification/index.php>

JIS Z 7253 (2012年)

Supplier's data/information

責任の限定について

ここに記載されたデータは最新の知識及び経験に基づいたものです。安全性データシートの目的は当該製品を安全に取り扱って頂くための情報を提供するものです。ここに記載されたデータは製品の性能について何ら保証するものではありません。

十分な情報が得られなかった成分については、全ての項目を分類できないとしております。

2016年6月1日改正の労働安全衛生法に則して作成されたものです。ただし、有害性情報につきましては、現時点における弊社の最善の知識をもって、通常可能な範囲で調査した結果に基づくものです。

2016年6月1日以降、変更の可能性がある場合には、最新の情報に基づき作成する予定にしております。

作成日: 1999年01月11日

改訂日: 2016年03月08日

## 安全データシート

### 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称:

製品名称: セメダイン 水中エポキシ 硬化剤

製品番号(SDS NO): GJ0250-10

供給者情報詳細

供給者: セメダイン株式会社

住所: 東京都品川区大崎1-11-2 ゲートシティ大崎イーストタワー

担当部署: 環境安全衛生部

電話番号: 03-6421-7413

FAX: 03-6421-7416

緊急連絡先電話: 03-6421-7413

### 2. 危険有害性の要約

製品のGHS分類、ラベル要素

GHS分類

物理化学的危険性

物理化学的危険性: 該当せず/分類対象外

健康に対する有害性

皮膚腐食性及び刺激性: 区分 1

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性: 区分 1

皮膚感作性: 区分 1

生殖毒性: 区分 2

(呼吸器)

特定標的臓器毒性(反復ばく露): 区分 2(肝臓、腎臓、呼吸器)

環境有害性

水生環境有害性(急性): 区分 3

(注)記載なきGHS分類区分: 該当せず/分類対象外/区分外/分類できない

GHSラベル要素



注意喚起語: 危険

危険有害性情報

重篤な皮膚の薬傷及び目の損傷

重篤な眼の損傷

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い

臓器の障害

長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ

水生生物に有害

有害性

エポキシ樹脂硬化剤による皮膚障害を起こす恐れがある。

## 3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別：

混合物

化学的特定名：エポキシ樹脂系二液形接着剤 硬化剤

成分名	含有量(%)	CAS No.	化審法番号
ポリアミドアミン	非公開	非公開/未登録	非公開/未登録
トリエチレンテトラミン	3.0	112-24-3	2-163
フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	6.2	117-81-7	3-1307
4-4'-イソプロピリデンジフェノール	3.2	80-05-7	4-123
無機質充填材	非公開	非公開/未登録	非公開/未登録
シリカ	<10	非公開/未登録	非公開/未登録

注記:これらの値は、製品規格値ではありません。

安衛法「表示すべき有害物」該当成分

フタル酸ビス(2-エチルヘキシル), シリカ

安衛法「通知すべき有害物」該当成分

フタル酸ビス(2-エチルヘキシル), シリカ

化管法「指定化学物質」該当成分

トリエチレンテトラミン, フタル酸ビス(2-エチルヘキシル), 4-4'-イソプロピリデンジフェノール

## 4. 応急措置

応急措置の記述

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

直ちに医師の診察/手当てを受けること。

皮膚(又は髪)に付着した場合

汚染された衣類を直ちに全て脱ぐこと。

多量の水と石けん(鹼)で洗うこと。

皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合:医師の診察/手当てを受けること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合:医師の診察/手当てを受けること。

飲み込んだ場合

水でよく口の中を洗わせる。意識がある場合、水をコップ1-2杯飲ませた上で、指をのどに差し込んで吐き出させる。

直ちに医師に連絡すること。

医師に対する特別な注意事項

特別な処置が必要である。



---

## 5. 火災時の措置

### 消火剤

#### 適切な消火剤

火災の場合は泡、粉末、炭酸ガスを使用すること。

#### 不適切な消火剤

水

### 消火を行う者への勧告

#### 特有の消火方法

火元の燃焼源を断ち、消火剤を使用して消化する。延焼の恐れのないよう水スプレーで周辺を冷却する。

消火作業は風上から行う。

保護着を着用するほか、状況によっては不浸透性手袋、有機ガス用防毒マスク等の保護具を着用する。

#### 消火を行う者の保護

防火服/防災服/耐火服を着用すること。

---

## 6. 漏出時の措置

### 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

関係者以外は近づけない。

回収が終わるまで十分な換気を行う。

適切な保護具を着用する。

皮膚に触れたり眼に入らないように、不浸透性手袋などの保護具を着用する。

### 環境に対する注意事項

漏出した場所の周辺にはロープを張り、人の立ち入りを禁止する。

付近の着火源を取り除き、消火器材を準備する。多量の場合には、流路を盛土などで囲って流出を防止する。

### 封じ込め及び浄化の方法及び機材

少量:紙、布、砂などに吸収させ、蓋つきの器等に回収する。

大量:何よりも拡散の防止を図る。できるだけ液体を容器に回収する。回収できなかったものに対しては、少量漏出時の措置をとる。

流出、その他の事故が発生した時には、警察署、消防署等の機関に連絡する。

---

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

#### 技術的対策

(取扱者のばく露防止)

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。

#### 安全取扱注意事項

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

### 配合禁忌等、安全な保管条件

#### 適切な保管条件

容器を密閉し、冷暗所に保管する。

その他、電気機器は防爆構造とするほか、消防法などの法令に定めるところに従う。

---

## 8. ばく露防止及び保護措置

### 管理指標

管理濃度データなし

### 許容濃度

(フタル酸ビス(2-エチルヘキシル))

日本産衛学会(1995) 5mg/m<sup>3</sup>

(フタル酸ビス(2-エチルヘキシル))

ACGIH(1996) TWA: 5mg/m<sup>3</sup> (下気道刺激)

(シリカ)

ACGIH(2009) TWA: 0.025mg/m<sup>3</sup>(R) (肺繊維症; 肺がん)

### ばく露防止

#### 保護具

##### 手の保護具

保護手袋を着用する。

##### 眼の保護具

保護眼鏡/顔面保護具を着用する。

##### 皮膚及び身体の保護具

保護衣を着用する。

#### 衛生対策

取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。

汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

---

## 9. 物理的及び化学的性質

基本的な物理的及び化学的性質に関する情報

### 物理的状態

形状：パテ状

色：黄白色

引火点：約200°C

### 溶解度

水に対する溶解度：不溶

---

## 10. 安定性及び反応性

### 化学的安定性

通常の保管条件/取扱い条件において安定である。

### 危険有害反応可能性

一度に大量の主剤と混合すると、温度が急激に上昇する。

### 避けるべき条件

高温、火気、スパーク

### 混触危険物質

アルカリ、酸化剤

---

## 11. 有害性情報

### 毒性学的影響に関する情報

#### 急性毒性

##### 急性毒性(経口)

[日本公表根拠データ]  
(トリエチレンテトラミン)  
2500 mg/kg (JPMA第5版)  
(4-4'-イソプロピリデンジフェノール)  
rat LD50 =3300 mg/kg (EU-RAR No.37, 2003)

##### 急性毒性(経皮)

[日本公表根拠データ]  
(トリエチレンテトラミン)  
rabbit LD50=550 mg/kg (SIDS, 1998)  
(4-4'-イソプロピリデンジフェノール)  
rabbit LD50 =>2000 mg/kg (EU-RAR No.37, 2003)

#### 局所効果

##### 皮膚腐食性・刺激性

[日本公表根拠データ]  
(トリエチレンテトラミン)  
ラビット 壊死 (SIDS, 1998)

##### 眼に対する重篤な損傷・刺激性

[日本公表根拠データ]  
(トリエチレンテトラミン)  
ラビット 腐食性 (SIDS, 1998)  
(フタル酸ビス(2-エチルヘキシル))  
軽微な眼刺激性 (ACGIH 7th, 2001 et al)  
(4-4'-イソプロピリデンジフェノール)  
ラビット 重度の眼刺激性 (EU-RAR No.37, 2003)

##### 皮膚感作性

[日本公表根拠データ]  
(トリエチレンテトラミン) cat.1; guinea pig : sensitizing, SIDS, 1998  
(4-4'-イソプロピリデンジフェノール) cat.1; guinea pig : EU-RAR No.37, 2003

#### 生殖細胞変異原性データなし

#### 発がん性

[日本公表根拠データ]  
(シリカ)  
IARC (68, 1997) Gr.1 et al  
(フタル酸ビス(2-エチルヘキシル))  
IARC-Gr.2B : ヒトに対して発がん性があるかもしれない  
(シリカ)  
IARC-Gr.1 : ヒトに対して発がん性がある  
(フタル酸ビス(2-エチルヘキシル))  
ACGIH-A3(1996) : 確認された動物発がん性因子であるが、ヒトとの関連は不明  
(シリカ)  
ACGIH-A2(2009) : ヒト発がん性の疑いがある  
(フタル酸ビス(2-エチルヘキシル))  
日本産衛学会-2B : 人におそらく発がん性があると判断できる証拠が比較的十分でない物質  
(シリカ)  
日本産衛学会-1 : 人に発がん性があると判断できる物質

#### 生殖毒性

[日本公表根拠データ]  
(フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)) cat.1B; CERi・NITE有害性評価書 No.7, 2004  
(4-4'-イソプロピリデンジフェノール) cat.2; CERi・NITE有害性評価書 No.4, 2005

催奇形性データなし

短期ばく露による即時影響、長期ばく露による遅延/慢性影響

特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

[区分1]

[日本公表根拠データ]

(4-4'-イソプロピリデンジフェノール) 呼吸器 (EU-RAR No.37, 2003)

(シリカ) 呼吸器系 (SITTIG 4th, 2002)

[区分3(気道刺激性)]

[日本公表根拠データ]

(トリエチレンテトラミン) 気道刺激性 (SIDS, 1998)

[区分3(麻酔作用)]

[日本公表根拠データ]

(4-4'-イソプロピリデンジフェノール) 麻酔作用 (EU-RAR No.37, 2003)

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

[区分1]

[日本公表根拠データ]

(シリカ) 呼吸器系、腎臓 (ACGIH, 2005)

[区分2]

[日本公表根拠データ]

(4-4'-イソプロピリデンジフェノール) 呼吸器、肝臓、腎臓 (EU-RAR No.37, 2003)

吸引性呼吸器有害性データなし

## 12. 環境影響情報

生態毒性

水生毒性

水生生物に有害

水生毒性(急性) 成分データ

[日本公表根拠データ]

(トリエチレンテトラミン)

甲殻類(オオミジンコ) EC50=31.1mg/L/48hr (SIDS, 2004)

(フタル酸ビス(2-エチルヘキシル))

甲殻類(オオミジンコ) EC50=0.133mg/L/48hr (EU-RAR, 2001)

(4-4'-イソプロピリデンジフェノール)

甲殻類(ミシッドシュリンプ) LC50=1.1mg/L/96hr (環境省, 2004)

水溶解度

(トリエチレンテトラミン)

混和する (ICSC, 2009)

(フタル酸ビス(2-エチルヘキシル))

0.000003 g/100 ml (EU-RAR, 2001)

(シリカ)

溶けない (ICSC, 2010)

(4-4'-イソプロピリデンジフェノール)

非常に溶けにくい (0.03 g/100 ml) (ICSC, 2011)

残留性・分解性

(トリエチレンテトラミン)

OECD302B1における分解度: 0% (SIDS, 2004)

(フタル酸ビス(2-エチルヘキシル))

BODによる分解度: 69% (既存化学物質安全性点検データ)

(4-4'-イソプロピリデンジフェノール)

BODによる分解度: 0% (既存化学物質安全性点検データ)

## 生体蓄積性

(4-4'-イソプロピリデンジフェノール)

log Pow=3.32 (ICSC, 2011); BCF=67.7(Check & Review, Japan)

(トリエチレンテトラミン)

log Pow=-1.4 through -1.66 (ICSC, 2009)

(フタル酸ビス(2-エチルヘキシル))

log Pow=5.03 (ICSC, 2001) ; BCF=840(EU-RAR, 2001)

---

13. 廃棄上の注意

## 廃棄物の処理方法

環境への放出を避けること。

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

廃棄物の処理及び清掃に関する法律の分類では、特別管理産業廃棄物の廃油と廃プラスチック類の混合物で、その処理については認可を受けた専門の処理業者に委託する。使い切った後の容器は、接着剤が乾燥固化していれば、産業廃棄物の金属くずと廃プラスチック類の混合物になる。

---

14. 輸送上の注意

## 国連番号、国連分類

番号 : 3259

品名(国連輸送名) :

アミン類、固体、腐食性、N.O.S.又はポリアミン類、固体、腐食性、N.O.S.

国連分類(輸送における危険有害性クラス) : 8

容器等級 : III

指針番号 : 154

特別規定番号 : 223; 274; A3; A803

## 特別の安全対策

容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、破損がないように取扱い、荷崩れの防止を確実に行う。

消防法、船舶安全法などの法令の定めるところに従う

## MARPOL条約附属書II 改訂有害液体物質及びIBCコード

有害液体物質(Y類)

トリエチレンテトラミン

有害液体物質(Y類同等)

フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)

---

## 15. 適用法令

当該製品に特有の安全、健康及び環境に関する規則/法令

労働安全衛生法

粉じん障害防止規則(令19号)

シリカ

名称表示危険/有害物(令18条)

シリカ; フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)

名称通知危険/有害物(第57条の2、令第18条の2別表9)

シリカ; フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)

化学物質管理促進(PRTR)法

第1種指定化学物質

4-4'-イソプロピリデンジフェノール; トリエチレンテトラミン; フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)

消防法

指定可燃物 可燃性固体類(届出数量 3,000kg)

化審法

優先評価化学物質

フタル酸ビス(2-エチルヘキシル); 4-4'-イソプロピリデンジフェノール

大気汚染防止法

有害大気汚染物質(中環審第9次答申)

4-4'-イソプロピリデンジフェノール; トリエチレンテトラミン; フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)

船舶安全法

腐食性物質 分類8

航空法

腐食性物質 分類8

水質汚濁防止法

指定物質

フタル酸ビス(2-エチルヘキシル); 4-4'-イソプロピリデンジフェノール

適用法規情報

労働基準法

労働省労働基準局長通達 改正基発第339号

(エポキシ樹脂の硬化剤による健康障害防止について)

硬化剤主成分表示:

ポリアミドアミン

---

## 16. その他の情報

参考文献

Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, (5th ed., 2013), UN

Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 18th edit., 2013 UN

2012 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK(US DOT)

2015 TLVs and BEIs. (ACGIH)

<http://monographs.iarc.fr/ENG/Classification/index.php>

JIS Z 7253 (2012年)

Supplier's data/information

責任の限定について

ここに記載されたデータは最新の知識及び経験に基づいたものです。安全性データシートの目的は当該製品を安全に取り扱って頂くための情報を提供するものです。ここに記載されたデータは製品の性能について何ら保証するものではありません。

十分な情報が得られなかった成分については、全ての項目を分類できないとしております。

2016年6月1日改正の労働安全衛生法に則して作成されたものです。ただし、有害性情報につきましては、現時点における弊社の最善の知識をもって、通常可能な範囲で調査した結果に基づくものです。

2016年6月1日以降、変更の可能性がある場合には、最新の情報に基づき作成する予定にしております。